

## キャリア教育で育てる「人生100年時代の社会人基礎力」

瀧崎優佳

### I. はじめに

経済産業省は2006年に有識者会議により職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力として「社会人基礎力」を提唱した<sup>1)</sup>。その後人生100年時代に新たに必要とされる3つの視点が追加され2018年2月に経済産業省産業人材政策室から「人生100年時代の社会人基礎力」が発表された<sup>2)</sup>。豊橋創造大学短期大学部キャリアプランニング科ではカリキュラムポリシーとして教育目標項目の一番目に「現代社会の多様な課題を解決するのに不可欠な、社会人基礎力を身につけている」と掲げている<sup>3)</sup>。この社会人として求められる基礎学力、教養意識を身に付けさせると同時に社会に貢献できる人材を養成することを目標としている。

本稿では社会人基礎力が、大学教育のどのような場面でどのような能力が身につくのかを検討する。まず、従来の必修科目授業における学生のコメントから社会人基礎力の獲得状況を分析する。その上で、従来の授業では実感が得られにくい「主体性」など【前に踏み出す力】を身につける教育実践としてゼミナール活動を報告し、学生が社会人基礎力を修得し、成長できる場のあり方について考察する。

### II. 必修科目で身につける「社会人基礎力」とは

#### 2-1 社会人基礎力とは

「社会人基礎力」<sup>1)</sup>とは、2006年に経済産業省が主催した有識者会議により、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を「社会人基礎力(=3つの能力・12の能力要素)」として定義したものである。また経済産業省から発行されている「社会人基礎力 育成の手引き」<sup>4)</sup>によると、大学を取り巻く環境が大きく様変わりする中で、「これまで意識しなくても様々な経験の中で身に付いてきたと思われる社会で活躍していくために必要な力」を明確化したとある。

1) 社会人基礎力 経済産業省 (<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>を参照)

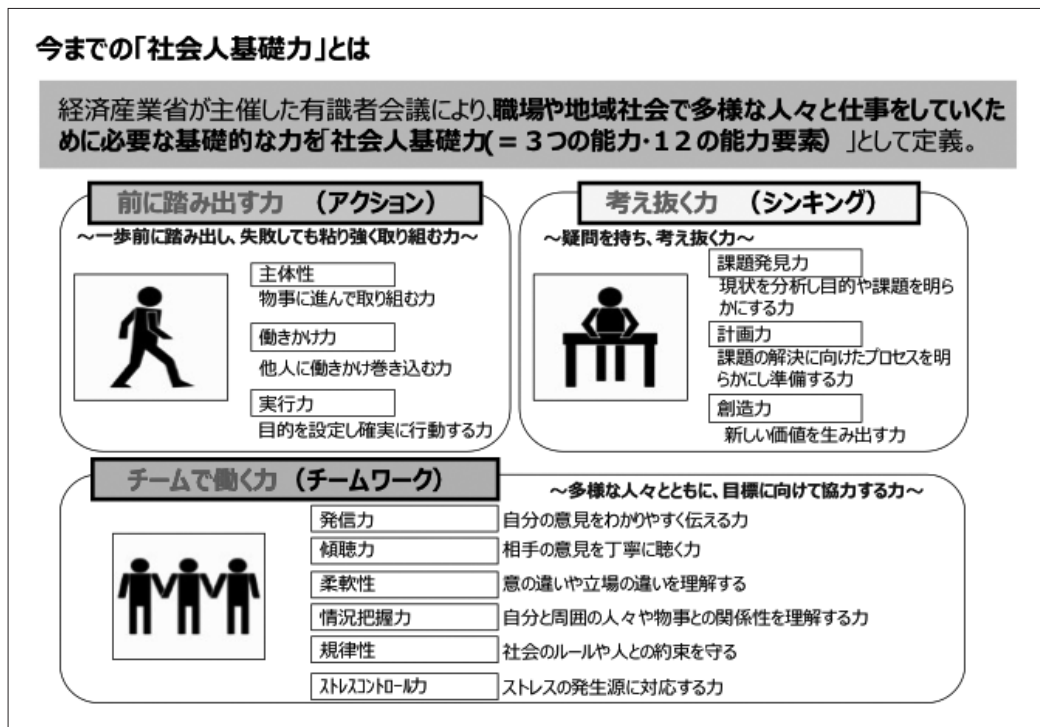
2) 人生100年時代の社会人基礎力 経済産業省人材政策室  
([https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/kisoryoku\\_PR.pptx](https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/kisoryoku_PR.pptx)を参照)

3) カリキュラムポリシー 豊橋創造大学短期大学部ホームページ  
(<http://www.sozo.ac.jp/outline/policy-career-planning2#admmision>を参照)

4) 社会人基礎力 育成の手引き 2009年経済産業省政策局産業人材政策室発行 P.I,IIより引用し筆者が編集

社会人基礎力の3つの能力と12の能力要素は産業省発表の図1のように定義されている。キャリアプランニング科でもこの社会人基礎力を身につけるための必修科目としてカリキュラムに組み込んでいる。筆者は必修科目のうち短大2年間で4科目を担当している。短期大学部では2年間でこの能力を身につけ、社会人として貢献できる人材を目指している。

図1 「人生100年時代の社会人基礎力」と「リカレント教育」について



出典 経済産業省 産業人材政策室 (2018)

## 2-2 必修科目で身についた能力、身につかなかった能力

担当する必修科目「ビジネス実務総論」「ビジネス実務演習」「接遇演習」「ライフ・コーディネート」の授業ではPBLやグループワークを積極的に導入して行ってきた。いずれの授業でも授業開始時の挨拶、気になった新聞記事をペアで話し合い、発表するという課題を2年間行っている。その中でどのような能力が身についたか、あるいは身につかなかったかを2年生の学生に対し、授業最終回後にアンケートを実施した。2年間で身についた力は個々により差はあるが、社会人基礎力が身についたと思うか、との問いには全員が「まあ身についた」、「少し身についた」と答えた。どのような場面でどのような能力、もしくは能力要素が身についたのか、受講者の具体的な意見から「社会人基礎力」における12の能力要素の抽出を試みた。

## 身につけた能力・成長したと感ずることなど

- ・毎週ニュース記事の発表があったので、社会の情勢について色々なことを知るキッカケになりました。ペアになった子の記事を聞くだけでも今、何が起きているのか分かるので面白かったです。敬語やマナーなどは高校で教養の授業があったので、その知識をより深めることが出来ました。(課題発見力)(傾聴力)
- ・挨拶、お辞儀などはじめは意識して行ってきたことでも意識せずとも出来るようになっていくので自分の成長を感じることが出来ました。(規律性)
- ・自分では、高校卒業までは自分から話しかけに行くことが苦手だったが、短大に入り少しずつできるようになったと思う。この授業のおかげで社会人になるために必要なマナーや対応が学べて入学できて本当に良かったと思った。引込み思案だった私がほかの同級生と話せるようになったりして、グループワークをやって良かったと思った。(規律性)(発信力)
- ・ビジネス実務演習を通して高校で学んだ敬語やマナーをより詳しく学ぶことが出来ました。適切な敬語を学んだことで、外部の方へメールのやり取りをするときに役に立ちました。(規律性)(発信力)
- ・ライフ・コーディネイトでは、あらためて自分を多方面で見つめなおすことができ、《計画力》や《創造力》が身につきました。
- ・ビジネス実務やサービス接遇演習で社会でのルールなど《規律性》を学ぶことが出来たと思いました。社会に出た時に色々な人と関わったり、言葉遣いや仕事場のルールなど授業で習ったことを活かしたりしたいと思いました。

(二重山括弧強調筆者 括弧内筆者)

このアンケート結果より授業開始時のきちんとした挨拶などの基本的なマナー、毎回新聞記事を持参させてペアで発表しあうなどの課題を与えることで【考え抜く力】【チームで働く力】の一部の能力要素を身につけることができたのではないかという仮説が立てられる。しかしその一方で身につけなかったと感じる力もある。上位に上がった能力要素は「実行力」「ストレスコントロール力」「主体性」等であった。具体的な意見を実際のアンケートから例示する。

## 身につけなかったと感じる能力・もっと伸ばしたいと思う能力について

- ・初めて出会う人とのコミュニケーション 上手く会話が續かない。(協調性)
- ・自分の思うように物事が実行に移すことが出来なかった。また、周りと比べて先頭に立って様々なことを行う力があまりつかなかったと思う。(実行力)(主体性)
- ・友人に比べて、《実行力》など身につけることが出来なかったと思いました。

- ・《発信力》をもう少し身につけたかったと思いました。自分から意見など言うのが苦手です。どうやったら上手く伝えられるかなど難しいので頑張りたいと思いました。
- ・《ストレスコントロール力》が身についたとは特に思い当たらなかった。
- ・《働きかけ力》は自分自身の出来なかったことだと感じました。働きかけのはじめの一步を出すことが難しかったです。
- ・身についた部分でもあるけれど、自己アピール力や、《発信力》もさらに身につけていきたかったと感じました。

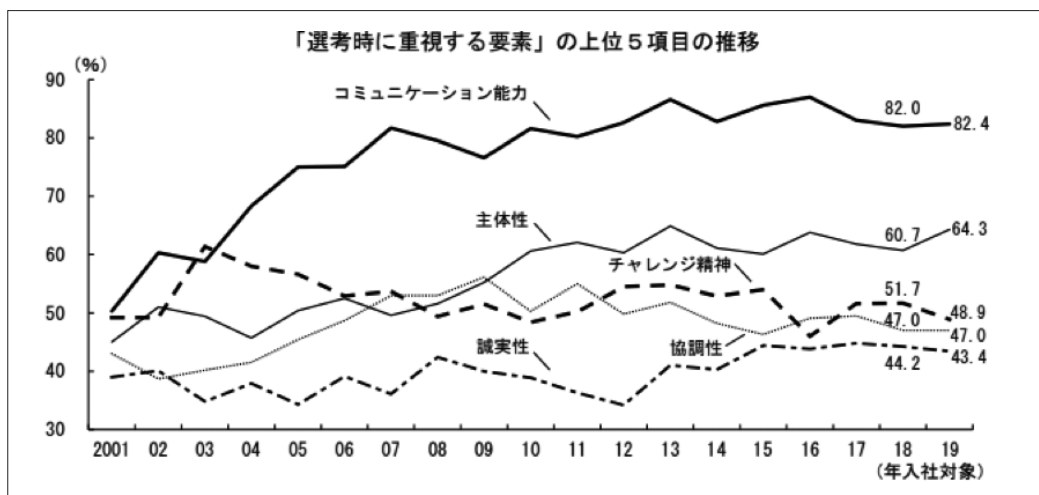
(二重山括弧強調筆者 括弧内筆者)

この学生のアンケート結果から3つの力の中でも【前に踏み出す力】の部分が弱いと考えられる。特にアンケート対象者の2年生はコロナ禍で入学式を迎えた学生達であった。オンラインの授業で始まり、インターンシップ、ホスピタリティ研修<sup>5)</sup>が中止になり、短期大学部で得られるはずの体験が少ない学年であったことも影響していると思われる。この力を身につけるためにはどんな場を与えればいいのか。

### 2-3 就職活動で求められる能力との比較

社会に貢献できる人材養成を教育目標にも掲げているため「社会人基礎力」と2018年に日本経済団体連合会が発表しているアンケート調査結果<sup>6)</sup>の企業が学生を採用する際「選考時に重視する要素」を比較してみたいと思う。

図2 2018年度 新卒採用に関するアンケート調査結果



出典 一般社団法人 日本経済団体連合会 (2018)

5) 東京ディズニーリゾートにて実際にテーマパークで実践しているおもてなしの考え方や取り組みを通じて、社会人として必要なホスピタリティマインドを学ぶ研修を行った。2020年度、2021年度は新型コロナウイルスの影響により中止している。

6) 2018年度 新卒採用に関するアンケート調査結果 - 経団連 (<https://www.keidanren.or.jp/policy/2018/110.pdf> 参照)

図表1と2を比較し、企業が選考時に重視する上位2つの「コミュニケーション能力」「主体性」について見てみる。社会人基礎力の中にはコミュニケーション能力と言う言葉はない。企業の採用試験で行われるグループワークやグループディスカッションでは「コミュニケーション能力」を見ているが、これは社会人基礎力の「チームで働く力」に相当する。

キャリアプランニング科では就職対策として面接対策講座でグループディスカッションやグループワークの練習にも力を入れてきた。また2018年より「聴き力検定3級」<sup>7)</sup>を1年生全員に受けさせることで傾聴力を養うようにしてきた。こちらについての効果は豊橋創造大学短期大学部研究紀要 38号<sup>8)</sup>でもまとめている。コミュニケーション能力についてはこのような取り組みの中で育まれたとアンケートの自由記述で答えた学生もいた。

しかし2位の要素である「主体性」に関しては講座を通じて成長したと答えた学生はいなかった。そもそも「主体性」とはどんな能力を表しているのだろうか。

### Ⅲ. プロジェクト活動で「前に踏み出す力」を育む

#### 3-1 プロジェクト活動の場で「前に踏み出す力」を育てる

「社会人基礎力 育成の手引き」では【前に踏み出す力】は「人間の能動的行動に関する領域をつかさどる力」、と説明されている<sup>4)</sup>。さらにこの前に踏み出す力はやる気、意欲が大きく関わるとある。また【前に踏み出す力】の能力要素である「主体性」については「意欲や自信を察せる自尊感情の部分を含みつつ、自立性から積極性、さらに自己理解・管理・評価能力までカバーする能力」として位置付けている。社会人基礎力の能力要素はこの力がまずあって発揮できるもの、として最も重要視している。そしてこの書の中では前に踏み出す力の育て方について次のように書かれている。

#### 資料1 社会人基礎力 育成の手引き P099より引用

##### ①「前に踏み出す力」を育てる場面・状況イメージ

いかに自尊感情を高めるか、達成動機を向上させるかがポイントです。自尊感情としては「与えられた役割をこなすことで承認される」という経験をさせることが基本と考えられます。一方達成動機は「課題に深く関わることで高い達成感を得る」という経験が大事です。

出典 経済産業省政策局産業人材政策室（2009）

そこで前に踏み出す力を育てる場面として、2年次でのゼミナールにおけるプロジェクト活動で学生に役割を与えることによってこの力が育つのではないかと考えて1年間の実践的活動を実施した。

7) 聴き力検定とは聴き力検定協会が実施する検定であり、「どうすれば『相手が話しやすい環境を作り出すための聴き方』ができるようになるかの知識を有し、『実践できるレベル』としています。」(<http://xn--w8ju64h8n5a.com/> 参照)

8) 豊橋創造大学短期大学部研究紀要 38号研究ノート 聴く力を育てる 瀧崎優佳著 (<http://www2.sojo.ac.jp/pdf/kiyou38/contents/38-6Takizaki.pdf> 参照)



### 3-2 これまでのゼミナール活動について

担当しているゼミナールでは2021年11月に豊橋市の駅前大通りに開館した「まちなか図書館」<sup>9)</sup>に人を集める仕組みを考える」というテーマで2018年度から取り組んできた。当初はゼミ生を含め、学生にアンケートを行っても全くと言っていいほどの図書館開館の認知度は低かった。また、まちなか図書館の所在地である駅前大通りおよび近隣の商店街は若い人は特に足を向ける場所ではなかった。初年度は豊橋市の担当者に来てもらい、説明を受けて若い人にも図書館に興味を持ってもらうためにはどんなことを行ったらいいかについてディスカッションを行い、企画を考えてきた。図書館のできる商店街でのイベントの手伝いボランティアに参加したり若い人たちに駅前大通りを知ってもらうために豊橋祭りで行われる駅前大通りのイベント「市民総踊り」に80名の学生を集めて参加したりした。

またこの活動に向けて豊橋市が募集した「わかば補助金」<sup>10)</sup>に応募した。まちなか活性化、地域貢献としてのこの活動は豊橋市のこの補助金に採択されたことで、ゼミ生は応募書類の作成、市役所の窓口とのやり取り、下級生への指導など、通常の授業では得られない多様な体験を積むことができた。このように2年目までは順調に少しずつ活動の幅を広げていくことができた。

### 3-3 勝手にまちなか図書館応援隊プロジェクト

2020年度の3年目はほとんど活動ができない1年であった。新型コロナウイルスによる活動の制限である。今まで活動の場としてきた学祭や豊橋祭りはすべて中止となった。ほとんど図書館に関する活動ができないままに終わってしまった。

2021年度は4年目になり、いよいよ、まちなか図書館開館の年となった。コロナ禍での活動も1年たち、状況をみながらの活動を行うような体制もできてきた。わかば補助金にも再度応募することとした。この補助金を使用するにあたり一つ問題が出てきた。事業の成果発表は翌年となるため、すでにゼミ生は卒業している。(2020年度はコロナ禍のため発表が中止であった)そこで1年生にも声をかけて参加者を募り、8月からゼミ生とともにプロジェクト活動を行うこととなった。

このプロジェクトは「勝手にまちなか図書館応援隊」として21名で活動を行うこととなった。11月の開館に向けて行ったのは大きく2つである。

①若い人たちにまちなか図書館の認知度を上げること

②まちなか図書館に興味を持ってもらい、地域と図書館をつなぐイベントの開催である。

プロジェクトメンバーは3つのグループに分けられてそれぞれに役割が与えられた。2年

9) まちなか図書館 豊橋市駅前大通りに2021年に開館した図書館で飲食可のスペースや、おしゃべりができるスペースがあるなど既存の図書館とは違った新しいスタイルの図書館

(<https://www.library.toyohashi.aichi.jp/facility/machinaka/facility/> 参照)

10) わかば補助金 豊橋市内在住、または市内の会社や学校に通勤、通学している5名以上の団体で、その構成員の概ね8割が若者(中学卒業後の15歳以上30歳未満)である団体が行う事業を対象としている。ただし、1団体につき、ひとつの年度内に1事業のみ補助を受けることができます。なお、同一事業で3回まで補助を受けることができます。

(<https://www.city.toyohashi.lg.jp/8684.htm> 参照)

生がリーダーとなり1年生もそれぞれの役割が与えられた。それぞれ行ったのは以下の活動である。

①若い人たちにまちなか図書館の認知度を上げるための活動

- ・約300名の豊橋市内の高校生にまちなか図書館認知度のアンケート調査
- ・アンケートをもとに高校生の目を引くポスターチラシの作成
- ・インスタグラムによる図書館及び近隣商店街の情報発信

アンケートを作成し、学生が自ら高校に電話をして訪問し、趣旨説明をして依頼を行った。そしてその結果をもとまちなか図書館が作成したものではないオリジナルのポスター、チラシの作成を行った。またインスタグラムでは図書館近隣の商店街の方にインタビューをしたり、情報を掲載するための交渉を行ったりもした。ポスター掲示の依頼など同時に行った。

②まちなか図書館に興味を持ってもらい、地域と図書館をつなぐイベントの開催

- ・謎解きラリー（図書館と水上ビルという近隣の商店街でクイズを解きながら回るというもの）
- ・オリジナルバッグ作り（応援隊のロゴマークの入った袋に絵を描いてもらうもの）
- ・英字新聞によるエコバッグ作り（不要になった英字新聞を使ってエコバッグを作る）

まちなか図書館は豊橋市役所の管轄であり、①も②もひとつひとつ学生が市役所の担当者に確認を取りながら進めて行った。時には何度交渉してもうまくいかないこともあった。

イベントはまず10月の学祭においてリハーサルを兼ね大学図書館でイベントを行った。その際に出た課題を解決するために毎週ミーティングを行ったが、活動は途中で計画がうまくいけなくなったり、仕事を一人で抱え込んでしまう学生がいたり、トラブルも多々あった。人間関係がぎくしゃくすることもあったし、学生の活動量にも差があった。役割を与えることで自分がやるべきことを見つけると「前に踏み出す力」は育つ、ということはプロジェクトを通して学生は経験できたのであろうか。

次節では「新・社会人基礎力」におけるリフレクション（振り返り）のプロセスに着目しながら学生の能力取得について検討する。

## IV. プロジェクト活動で「新・社会人基礎力」を身につけるために

### 4-1 新・社会人基礎力とは

2006年に発表された社会人基礎力が2018年に、「新・社会人基礎力」<sup>11)</sup>とし、資料1のように見直された。

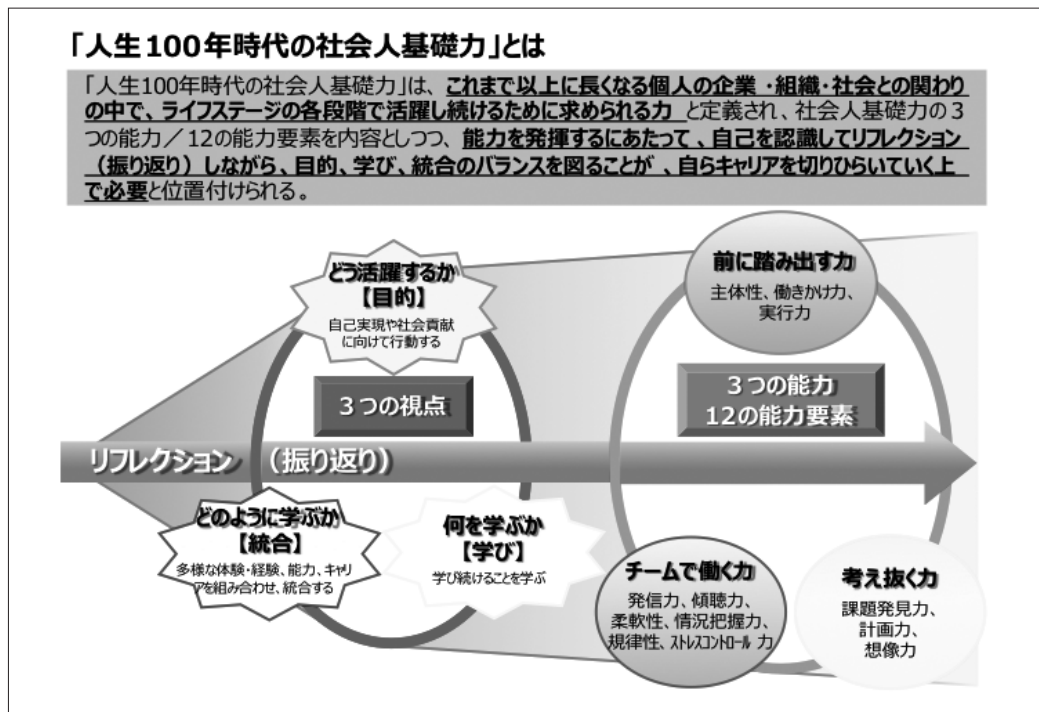
#### 資料2 平成30年2月「人生100年時代の社会人基礎力について」

「人生100年時代の社会人基礎力」の見直しのイメージ「新・社会人基礎力」は、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力と定義され、社会人基礎力の3つの能力/12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、目的、学び、組合せのバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置付けられる。

出典 経済産業省産業人材政策室発表（2018）

この見直しで新たに加えられたのは図3<sup>12)</sup>にある「3つの視点」である。

#### 図3 「人生100年時代の社会人基礎力」説明資料



出典 経済産業省（2018）

11) 経済産業省人材政策室（2018）人生100年時代の社会人基礎力について  
[https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/sansei/jinzairyoku/jinzaizou\\_wg/pdf/007\\_06\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/sansei/jinzairyoku/jinzaizou_wg/pdf/007_06_00.pdf) 参照

12) 経済産業省「人生100年時代の社会人基礎力」説明資料  
[https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/kisoryoku\\_PR.pptx](https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/kisoryoku_PR.pptx) 参照



この3つの視点を意識させるよう活動を次のように行ってきた。

### 【3つの視点】

- ・どう活躍するか【目的】自己実現や社会貢献に向けて行動する
  - 個々の役割を明確にし、それを達成することで自己実現をはかる。またまちなか活性プロジェクトとして社会貢献ができていないか認識させる
- ・何を学ぶか【学び】学び続けることを学ぶ
  - 企画書を作成させて自分たちが何をすべきなのか、また毎週ミーティングを行いその中で常にPDCAサイクルを意識させてきた。
- ・どのように学ぶか【組み合わせ】多様な体験・経験や能力を組み合わせる
  - 一人がいくつもの役割を持つことで多様な経験ができるようにした

## 4-2 リフレクション(振り返り)

「勝手にまちなか図書館応援隊」の活動では特に振り返りに重点をおいた。まちなか図書館での本番前に学祭で行ったことをリフレクションし、それを行動に移したことでまちなか図書館イベントの成功へとつながった。イベント後にもすぐにリフレクションを行い、次への行動へとつなげることとした。その結果身についたと学生が感じている能力が以下の通りである。

- ・二年生でゼミ長ということもあり、《主体性》が身につく、それに加え一年生に指示を出す力や協調性が身についた。
- ・新たに"モノ"を生み出す《創造力》が身についた。
- ・チームでどのような企画を作るか相談した時、状況把握をすることによって、自分が今すべきことがよくわかるようになりました。(状況把握力)
- ・水上ビルのカフェに取材に行ったり、高校に訪問したりした。やってみたくと思っていた事が実現でき《実行力》がついたと思う。
- ・謎解きラリー担当メンバーとして話し合いを進めていく中で、《傾聴力》や《柔軟性》、《規律性》が鍛えられたかなと感じます。また、謎解きラリーの開催や本紹介の展示等を通して、新たな《課題を発見》できるようになり、《計画力》なども、以前より身についたように思います。
- ・誰かがやらなきゃ進まないから《主体性》を持ってやる事ができた。また当日は周りを見ながら活動することができ宣伝もする事ができた。
- ・みんなに共有することで《課題も発見する》ことができた
- ・すぐ実行に移した事で、成功例・失敗例を出し次のステップに進むことができた。(実行力)
- ・《働きかけ力》や《実行力》はSNSグループで水上ビルの方に取材をもらいに伺った時に自分の力で伝えて協力して貰えるように話しました。
- ・先輩方がいない中緊張や不安でしたが失礼のないように話したり考えたりして行

動出来ました。(実行力)

- ・イベント後の反省会でイベントを振り返った際に、「ここはこうした方が良かったかも、」と《課題を見つける》ことができました。
- ・SNSチームではインスタグラムでまちなか図書館がどういう所か、水上ビルのお店は、どういう雰囲気ではどんな物があるのかお店の方にインタビューをしました。また勝手にまちなか図書館応援隊がしてきたことなど見やすくたくさんの方に伝わるようにしていきました。インスタグラムでこういった伝え方は初めてで少し大変な部分もありましたが経験したことで少しでも《発信力》はついたと思いました。
- ・高校に行き、チラシやポスターなども飾ってみんなに知ってもらえるようにしていきました。(発信力)
- ・提案したことがことごとく変わることが多く代替案を出したり当日の予測をしたりするために《柔軟性》がついたと思う。
- ・学祭で行った学内イベントからまちなか図書館で行うためのイベントに向けての課題や、問題点などを挙げることができた。(課題発見力)
- ・一年生を動かしたり呼びかけしたりするための行動力(※働きかけ力とも考えられる)が身についた。またみんなで協力して成し遂げる力も身についた。(実行力)
- ・私は、12月にまちなか図書館で行ったイベントで謎解きラリーの説明係をしていました。イベントの初めの方は事前に配られた原稿をそのまま読んでいただけでしたが、謎解きラリーから帰ってきた方の中に、「図書館だけでなく外にも行くと思わなかった」「水上ビルがどこかわからない」といった声がありました。このことから、主催者側と参加者との認識のずれがあり、このまま同じ説明を続けていたら参加者の方に必要以上に時間を取らせてしまうと思い、原稿に水上ビルについての説明を加えるようにしました。そうしたところ、水上ビルについての質問が減り、参加者の方が帰ってくる時間が早くなりました。この経験から、与えられたことだけをそのままするのではなく、その場や状況に合わせ、考えて行動する《柔軟性》を身につけることができたと感じます。
- ・今どの程度計画が進んでいてどの準備が足りていないのかなど考える事が多かったです。また、図書館イベントの際、困っている人を見つけて声をかける事もありました。周りを見る力が付いたと思います。(課題発見力)

(二重山括弧強調筆者 括弧内筆者)

今回のアンケート結果では「主体性」はじめ、その他、何人かの学生が「課題発見力」について述べていた。学祭イベントでの振り返りするなかで、まちなか図書館イベント本番への課題として捉えることができたようである。リフレクションの大切さもこの活動で得られた効果である。いくつもの反省点を前向きに捉えて課題発見とする学生も多かった。

一方で学生間のモチベーションの違いからストレスを感じる学生もいた。ストレスコント

ロールに関しては難しかったようである。

今回は1から自分たちでイベントを作り上げたということで1年生2年生ともに、自信へとつながった。これは大学内の授業だけでは得られるものではなく、このような活動を経験したことで得られた力である。

## V. 終わりに

まちなか図書館プロジェクトでは3-1資料1にあるように「与えられた役割をこなすことで承認される」という経験をさせることで「前に踏み出す力」が育つのではないかと考え「勝手にまちなか図書館応援隊」の活動を行ってきた。リフレクションを行ったアンケートの結果では資料1にあるように自尊感情が高まったことが見られる。またリフレクションを何度か行うことで「課題に深く関わることで高い達成感を得る」という経験も得られたようである。

次年度のゼミナール活動において再度この検証結果をもとに「前に踏み出す力」を育てる場面として「与えられた役割をこなす」という経験をさせることを引き続き実践し、「前に踏み出す力」が養われるか考察していきたい。

## 参考文献

一般社団法人 日本経済団体連合会 (2018) 2018年度 新卒採用に関するアンケート調査結果  
<https://www.keidanren.or.jp/policy/2018/110.pdf>  
(参照2021.12.1)

経済産業省人材政策室 (2018)  
人生100年時代の社会人基礎力について  
[https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/sansei/jinzairyoku/jinzaizou\\_wg/pdf/007\\_06\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/sansei/jinzairyoku/jinzaizou_wg/pdf/007_06_00.pdf)  
(参照2021.12.1)

経済産業省人材政策室 (2018)  
「人生100年時代の社会人基礎力」と「リカレント教育」について  
[https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/data/pdf/20180319001\\_3.pdf](https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/data/pdf/20180319001_3.pdf)  
(参照2021.12.1)

経済産業省「人生100年時代の社会人基礎力」説明資料(2018)  
[https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/kisoryoku\\_PR.pptx](https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/kisoryoku_PR.pptx)  
(参照2021.12.1)

社会人基礎力 育成の手引き

2009年 経済産業省政策局産業人材政策室発行 制作・調査河合塾